

2.1.5.3 生態系

嘉瀬川ダム周辺の生態系の概要を、陸域と河川域に分け記載する。

(1) 陸域

嘉瀬川ダム周辺の陸域の生息・生育環境を表 2.1.5-9 及び図 2.1.5-7 に示す。陸域の地域の生態系を典型的に現す生物群集及びその生息・生育環境に着目すると、一般に、植生の構造や機能が類似していれば、共通した生物群集がみられることが多い。

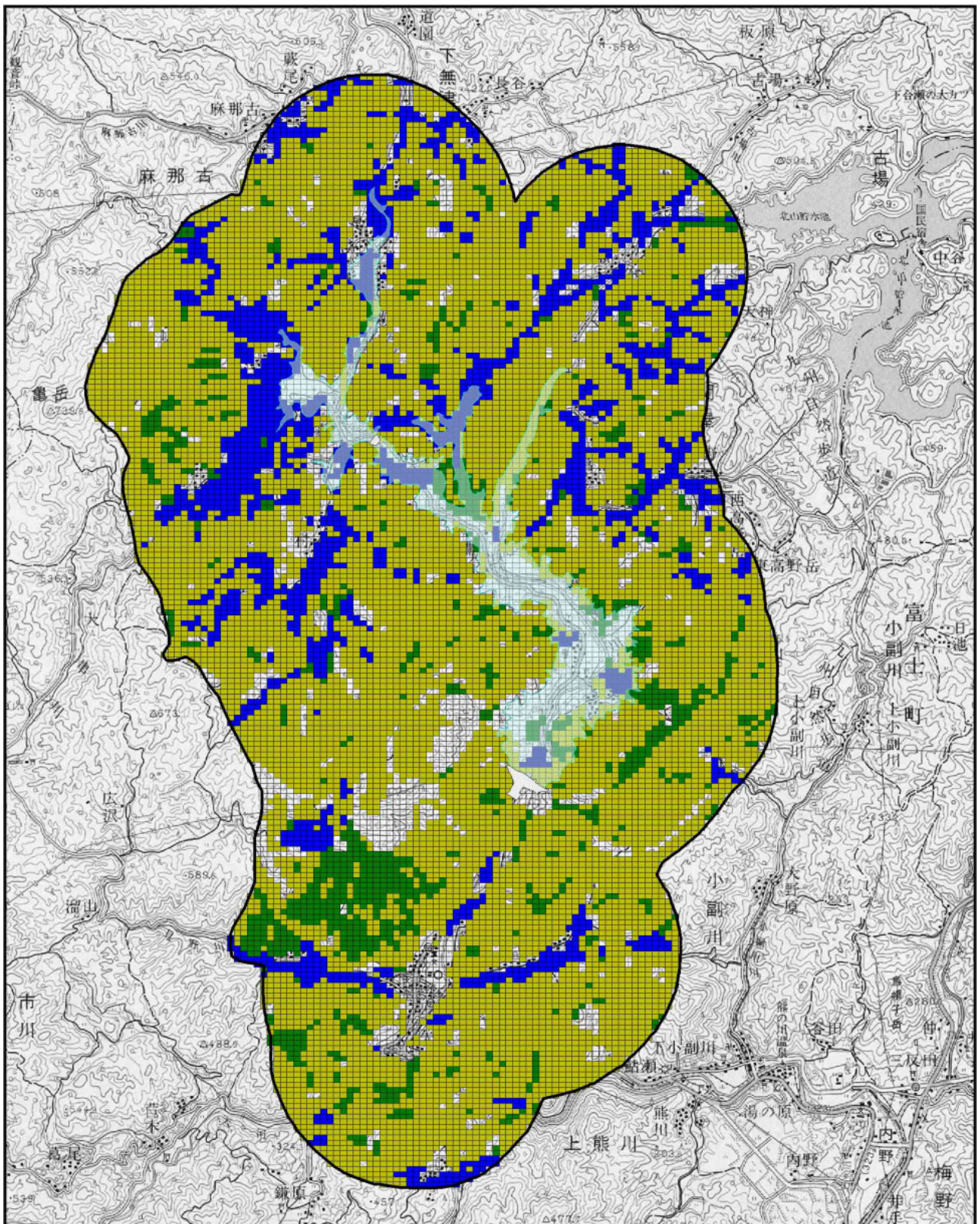
陸域の動植物の生息・生育環境としては、スギ・ヒノキ植林、スダジイ、アラカシ、ウラジロガシ等の萌芽林、耕作地があげられる。スギ・ヒノキ植林は当該地域を覆っており、最も広い生息・生育環境である。萌芽林は一部の山稜にパッチ状に残されている。耕作地は主に水田で、河川沿いや谷筋に分布している。萌芽林及び耕作地は狭小であるが、萌芽林は動物に対しドングリ等の餌を提供する等、哺乳類や鳥類等を支えている環境であること、また、耕作地は当該地域における両生類等の止水環境を利用する生物の主要な生息環境であると想定される。








表 2.1.5-9 想定される陸域の典型的な生息・生育環境(1/2)

環境	説明	分布位置
スギ・ヒノキ植林	樹高 15m～24m 程度に生育したスギ植林で、自然的状況の調査範囲内の山稜を概ね覆うようにみられる。この環境における主要な生物としてヤブサメ、ククイタダキ等の鳥類、タゴガエル等の両生類、ミスジツマキリエダシャク、スギドクガ、シロテンムラサキアツバ、ツマオビアツバ等の昆虫類があげられる。	山地 (広域)
萌芽林	5m～17m 程度のスダジイ、アラカシ等の常緑広葉樹からなる萌芽林とシイ・カシ林の伐採後に成立した 14m～17m 程度のコナラ群落で、畑瀬や貝野付近に小パッチがみられる。この環境における主要な生物としてアオバト、カゴシマアオゲラ、キュウシュウコゲラ、オオルリ等の鳥類、ブチサンショウウオ等の両生類、テングチョウ、ムラサキシジミ、サカハチチョウ、イチモンジチョウ、クロスジノメイガ、ウスバミスジエダシャク、ピロードナミシャク、ツマジロシャチホコ、スズキシヤチホコ等の昆虫類があげられる。	山地 (狭域)

表 2.1.5-9 想定される陸域の典型的な生息・生育環境(2/2)

環境	説明	分布位置
耕作地	<p>主に水田及びその周囲の用水路等湿地状の環境で、浦川及び大串川周辺に比較的大きなまとまりと、河川や谷筋に細長いまとまりがみられる。この環境における主要な生物としてカヤネズミ等の哺乳類、モズ、ジョウビタキ等の鳥類、トノサマガエル、ヌマガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル等の両生類、シマヘビ、ヤマカガシ等の爬虫類、ヒメツチカメムシ、ヒメマルカメムシ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、モンキチョウ、モンシロチョウ、シロマダラコヤガ、マルクビゴミムシ等の昆虫類があげられる。</p>	河川沿い



- 凡 例
-  : ダム堤体
 -  : 副ダム
 -  : 貯水子定区域
 -  : 自然的状況の調査範囲
 -  スギ・ヒノキ植林
 -  萌芽林
 -  耕作地

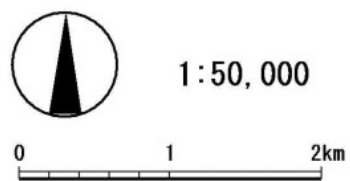


図2.1.5-7
陸域環境情報図

(2) 河川域

嘉瀬川ダム周辺の河川域の生息・生育環境を表 2.1.5-10 及び図 2.1.5-8 に示す。

河川域の地域の生態系を典型的に現す生物群集及びその生息・生育環境に着目すると、一般に、河川形態が類似していれば、共通した生物群集がみられることが多い。

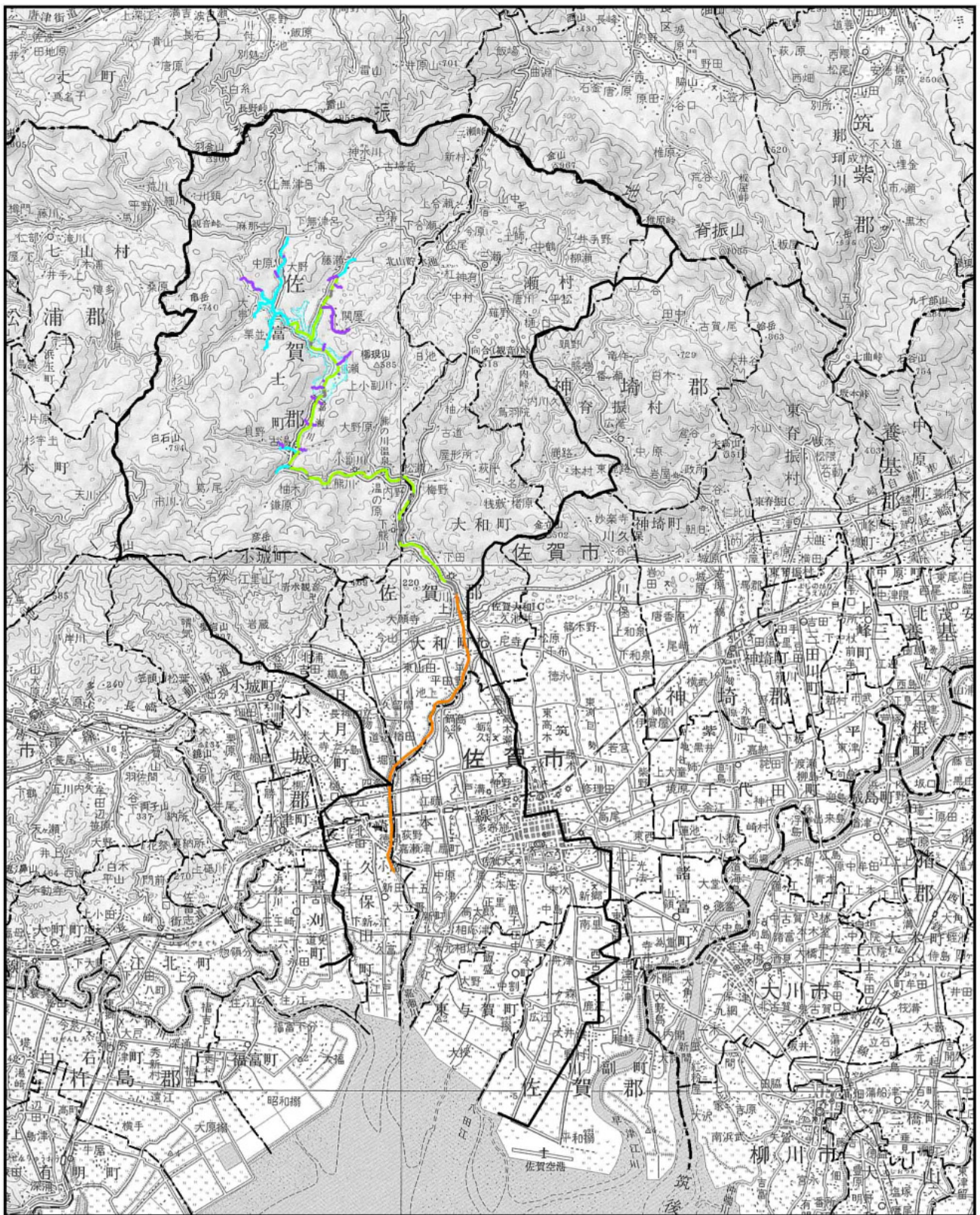
河川形態の観点から当該地域の河川は、主に AaI 型の「源流的な川」、主に AaII 型の「溪流的な川」、主に Aa-Bb 移行型の「山地を流れる川」、Bb 型の「平野を流れる川」の 4 区分に分けられる。なお、狭小であるが頭首工や発電ダム等の上流には止水域が見られる。

「源流的な川」は、急峻な地形を流れ、常緑広葉樹林が上部を覆う環境となっており、枝沢や谷筋に分布する。「溪流的な川」は、巨石等の間を流れるやや上空の開けた渓谷状の環境で、嘉瀬川の鮎の瀬ダム下流や雄淵雌淵付近、天河川等に分布する。

「山地を流れる川」は、山間部の開けた谷筋で砂州や石礫をツルヨシが覆い瀬淵がみられる環境で、神水川や嘉瀬川下流部に分布する。「平野を流れる川」は人為的な影響を強く受けている環境で、下流部に位置する。

表 2.1.5-10 想定される河川域の典型的な生息・生育環境

環境	説明	分布位置
源流的な川	嘉瀬川や神水川に流入する沢筋や浦川の上流部にみられ、階段状の小滝が連続し、上空を樹林が覆う環境である。この環境における主要な生物としてミソサザイ等の鳥類、タカハヤ等の魚類、ニッポンヨコエビ、フタスジモンカゲロウ、オニヤンマ、オオヤマシマトビケラ、ムラサキトビケラ等の底生動物があげられる。	・ 沢
溪流的な川	嘉瀬川の新小関橋付近、神水川の小ヶ倉橋より上流、浦川、大串川、栗並川、貝野川及び天河川にみられ、渓谷状の河道を、巨石や露岩をぬうように流下する。河岸にツルヨシがみられるが上空は概ね開いている環境である。この環境における主要な生物としてタカハヤ、ドンコ等の魚類、ナミヒラタカゲロウ、ウエノヒラタカゲロウ、スカシアミカ等の底生動物があげられる。	・ 流入支川(神水川上流部、栗並川、浦川) ・ 嘉瀬川鮎の瀬ダム下流付近
山地を流れる川	神水川の嘉瀬川合流前、嘉瀬川の鮎の瀬ダム付近より下流にみられ、やや緩やかな河道内にツルヨシがみられる環境である。この環境における主要な生物としてオシドリ、ヤマセミ、カワガラス等の鳥類、カジカガエル等の両生類、カワムツ、カマツカ等の魚類、Eコカゲロウ、モンカゲロウ、キイロカワカゲロウ、アカマダラカゲロウ、ヒゲナガカワトビケラ等の底生動物があげられる。	・ 神水川下流部 ・ 嘉瀬川(畑瀬、古湯、熊川から川上付近)
平野を流れる川	嘉瀬川の下流部にみられ、大きく緩やかな澁筋、人為的に利用されている広い河川敷等により構成されるものである。この環境における主要な生物としてマガモ、ハクセキレイ、ツリスガラ等の鳥類、スナヤツメ、タナゴ類、カワヒガイ等の魚類、モノアラガイ、サホコカゲロウ、アオモンイトトンボ、ヒメゲンゴロウ等の底生動物があげられる。	・ 嘉瀬川(川上から下流)
止水域	嘉瀬川及び神水川の頭首工や発電ダム等の上流に広がる止水域で、上空は完全に開けている。	・ 嘉瀬川の川上川第3ダム、川上川第2ダム、川上川第1ダム付近



凡 例

- : ダム堤体
- : 貯水予定区域
- : 自然的状況の調査範囲
- : 県界
- : 市町村界
- : 源流的な川
- : 溪流的な川
- : 山地を流れる川
- : 平野を流れる川
- : 止水域



1:200,000

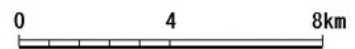


図2.1.5-8
河川域環境情報図